

## 9 脊髄損傷女性の月経・出産・更年期・婦人科疾患・性行動に関する調査研究

### — 第二報 脊髄損傷女性の性行動（性意識、性行為、性の悩み）に関する報告 —

病院看護部 道木恭子、山中京子、富岡佳代、齊藤文子、宮坂良子、古田佳奈代  
横田美恵子、田村玉美

#### 【はじめに】

女性が恋愛や結婚を望むのはごく自然なことであり、それは脊髄損傷女性（以下脊損女性）も同じである。ここ数年、脊損女性の性について調査をしてきた結果、受傷後も殆どの女性に月経が再開すること、基本的に妊娠・出産は可能であることなどが把握できた。しかし、女性たちの中には結婚や出産にいたる以前に「自分は障害者であって女ではない」という悩みをもつ女性もおり、こうした問題に対する支援は検討されてこなかった。脊損女性の性に関する問題は、単に泌尿生殖器系の問題に留まらないことから、心理面も含めた支援が必要である。

受傷後も女性としての尊厳をもって生活できるよう支援していくためには、女性たちが抱えている問題を正しく理解することが必要である。今回は今まで触れにくい領域とされてきた性行動について報告することで、性に関する支援の必要性を提言したい。

#### 【目的】

脊損女性の性意識、性行為、性に関する悩みについて明らかにし、今後の支援を検討する。

【対象】 18歳以上の脊損女性 126名：平均年齢 50.6歳（女性の卵巣機能によるライフサイクル分類で思春期後期 1名、性成熟期 45名、更年期 43名、老年期 37名）

【方法】 郵送による無記名自記式質問紙調査法

#### 【結果】

##### 1. 性意識

「セックスをしたいとか、セックスについて考えるか」の設問に対し、「考える」12名（9.5%）、「時々考える」38名（30.2%）、「考えない」76名（60.3%）であった。思春期、性成熟期の年齢層についてみると、「考える・時々考える」27名「考えない」20名と考える人が多かった。

##### 2. 性行為

「セックスの経験があるか」の設問に対し、「経験がある」109名（86.5%）、「経験はない」13名（10.3%）、無回答4名であった。経験者については、「受傷前のみ経験あり」50名（45.8%）、「受傷前と後に経験あり」46名（42.2%）、「受傷後に経験した」13名（11.9%）と、受傷後も性行為経験をもつ人は59名（54.1%）で、うち48名（81.4%）が身体的、心理的な問題を抱えていた（表1）。

##### 3. 性に関する悩み（自由記述から）

「いろんな方法試したが、感覚のないことを互いに意識するあまり、精神的なずれを感じ始めた」、「もう女性としてはみてくれない」、「夫がはけ口に AV ビデオ、出会い系サイトを利用している」、「受傷後2年後位から、関係がなくなった。外に女性がいることも分かっている。互いに苦しい」、「申し訳なくて自分からは求められなかった。数ヶ月でお互い求め合わなくなった」などの悩みがあげられ、問題の原因を障害によるものとする傾向がみられた。また本人だけではなくパートナーも同様に苦しんでいた。

#### 【考察】

対象者が調査用紙に一生懸命書いたと思われる文章から、本人たちが性について自分自身の言葉で語り、それを真剣に受け止めていくことが脊損女性および医療関係者にとって重要なステップとなると考えた。性に関する問題は複雑であり、障害の影響も受けることから、脊髄損傷を理解している看護師の関わりが有効であり、脊損女性が安心して相談できる相談窓口の設置が望まれる。

表 1 性行為時の問題

	n=48	%
尿が漏れる	24	50.0
便がもれる	2	4.2
体位がとりづらい	22	45.8
膣の潤滑が悪い	15	31.3
脚が開きづらい	13	27.1
膣のしまりが悪い	11	22.9
留置カテーテルがじゃま	7	14.9
痙縮があるため難しい	5	10.4
身体が痛い	5	10.4
おならがでる	5	10.4
性交痛がある	3	6.3
呼吸が苦しい	3	6.3
オーガズムがわからない	19	39.6
気持ちよくない	19	39.6
相手が満足しているか心配	16	33.3
自分の身体の臭いが気になる	4	8.3